

未来へ繋ぐ税金

学校法人開智学園 開智未来中学校

三年 福田 リアム

私の姉は、九月下旬にコロナウイルスにかかり、治った所で十月に突然お腹が痛いと言った。病院へ行き、検査をすると、姉は盲腸であることが分かった。隣の市の総合病院を紹介され、すぐに入院・手術することになった。姉は一週間近く入院し、母は、ほぼ毎日病院へ足を運んだ。手術後数日間身体が動かせず、食事もしられなく大変なようだった。姉の入院医療費は「高額療養費制度」と「ひとり親家庭医療費助成制度」で少額の自己負担で済んだそうだ。私が医療機関にかかる時も、十八歳までは「子ども医療費助成制度」適用で自己負担無しだそうだ。一方、日本は超高齢化社会で、様々な問題を抱えている。その一つに後期高齢者の医療費制度である。内訳は、公費(税金)五割、現役世代からの支援金四割、高齢者の保険料一割となっている。私は現役世代の負担割合に驚いた。私が成人する頃には、この割合が更に高くなるのか不安である。イギリスは医療費は全て税金で賄われているが、一部自己負担することもあるようだ。国によってシステムの違いがあり、それぞれメリット・デメリットもある。日本では少子化対策の一つとして、出産育児一時金の増額が始まった。増額分の財源は後期高齢者医療制度からである。高齢者と現役世代で支え合うことは大切であると思う。

私の夢は医者になることだ。今年の夏、進路のために東京大学医科学部の公開セミナーに参加した。ネズミの実験やアフリカの現状についてなど興味深い研究をたくさん知ることができた。印象に残っているのはウイルスの研究についてだ。バイオセーフティーレベルというウイルスや細菌を扱う実験室の格付がある。と学び、日本は先進国の中で唯一バイオセーフティーレベル四の施設が無かったが、最近、長崎にバイオセーフティーレベル四の施設ができた。と学んだ。その施設は建設だけで百億円、維持だけで十億円、専用の防護服一着百万円もかかるそうだ。この施設の建設運営費は、もちろん税金によるものだ。莫大な費用ではあるが、私達が健康・安全に暮らしていくには未知の病気・ウイルスの研究も必要不可欠であろう。

健康寿命と医療費については、健康寿命が一番長い都道府県では、一人当たり医療費が約三万一千円低いという関係がみられた。そう。年齢に関係なく、健康でいることは医療費の節約になる。適度な運動で健康な体づくりや定期的な検診で早期発見、ジェネリック医薬品の利用など、国民全員が少しでも健康を意識した生活することで、生活の改善と共に税の新たな使い道へと繋がるだろう。

二〇二三年の国の税収は過去最高の七十二兆円だった。しかし、日本は少子高齢化により財源の税収は減っていくと考えられている。国民一人一人の意識と行動で、豊かな社会と明るい未来に繋がるだろう。正しく有益な税金の使い方がされることに期待を寄せたい。